

学校関係者評価報告書

優和福祉専門学校 学校関係者評価委員会
(令和6年2月26日)

1 教育理念・目標

介護ニーズの高度化・複雑化が進む社会情勢の時代にあって、素晴らしい教育理念・目標であると思います。学校の将来構想は、そのまま学生の修学意欲や学校の魅力につながるため、教育理念や目的、目指す介護人材像などについて、学校関係者はもとより大勢の方々にも周知されることが大切だと思います。学内にも掲示するなど一層の周知を図り、その理念・目標に立った「学生に寄り添ったきめ細やかな教育」をこれからも実践してください。

また、福祉はチームケアが基本ですので、チームでケアに対しての倫理観を共有してかかわることが大切になると思います。したがって、人材育成についてもその点を十分に意識した教育が大切になると思います。学校での学びを通して、学生がより崇高な介護観の醸成を育むことができる教育活動を継続してください。

2 学校運営

少子化や職業選択の多様化などが進み、学生の確保など難しい課題も多いと思いますが、学生ができるだけ介護福祉に興味や誇りを持てるような取り組みができればと考えます。そのためには、今の時代に合わせた情報発信も重要な要素だと思います。どういう対象者にどのような情報を発信するのか、広く若者には SNS などの媒体を利用して、「楽しそうだ」「やりがいがあるな」といった魅力を発信していくことが大切だと思います。介護業界各団体でも同じ課題解決に向け、様々な取組をしていますので協力・連携して取り組んでいくのが良いと思います。また、大人の視点だけでなく、学生の発想による若者目線からの情報発信が効果的であると思います。それは学生にとっても、潤いある学校生活につながる活動となると考えます。

3 教育活動

教職員の知識・技術・能力開発の研修等については、なかなか組織的に行うことが難しい実態が評価の低さに現れているようです。しかし、現状外部研修に参加することが難しく、個人的な努力に頼っているのが現状であるなら、その努力に何かしらの評価をつけることが必要ではないかと考えます。時間を生み出すことは大変ですが、大事なことなのでこれからも努力して行ってください。

新講座については大変良い内容であると思います。福祉現場においては、個々の利用者、職員の置かれている状況を理解し、具体的な問題の解決を図ることが必要ですので、人間的状況を診断し処置する技能や、事象に関する体系的知識を持った効果的な思考方法などを会得することが不可欠であると考えます。また、IT 化は施設でも進められていて、無駄をなくし、利用様と関わる時間の確保のために研究しています。この分野は若い方の吸収力が高いと思いますので、実際に就職したときにその中心的な役割を担うことができる人材になってほしいと思います。

4 学修成果

学生数が少ないので例え1名でもパーセンテージに大きな影響がでてしまうが、国家試験の合格率が高いことは大きな学習成果であると思います。学校のきめ細かな指導の成果として大いに自信

をもって良いと思います。一方で、学生の行動や価値観も大きく変わってきています。コロナ禍明けのスタート時期も重なり、学生のメンタルコントロールやコミュニケーションの取り方など、サポートは難しいと思います。他人に触れられたくない部分もあると思いますので、ワンオンワンの支援体制などは学生に安心感を与え、モチベーションのアップにつながるものと思います。

様々な目的で入学してくる学生にどのように目的・目標を持たせるかは大変なことだと思いますが、本人の意欲が高められるようなコミュニケーションがとれると良いと思います。なぜ学ぶのかを理解することは本当に大事なことだと思います。学ぶことで新しい視点が生まれ、新しい視点が多かったことで物事を考え、いろいろな角度から考察できるようになります。視野が広がり、様々な可能性を考えられるようになります。多様な場面で対応できる人材の育成に継続して取り組んでください。

5 学生支援

早朝や放課後などの授業時間外に補講や実技の練習等、学生のニーズに献身的に対応しているのに頭が下がります。また、卒業生が教員を頼って来校するのは、人間関係が良いからだと思います。学生個々のニーズに対応しつつも、先生方の時間管理にも気を配り、ワークライフバランスの取れた労働環境の維持に努めてください。ゆとりある学校生活であってこそ、新しい発想や創造的な活動が生まれてくると思います。

経済面の支援はどの学校の学生にも同じことが言えると思います。年々支援制度が拡充していることを歓迎していますが、これからは卒業後の経済負担が無い支援制度まで充実させていくことが望まれると思います。

6 教育環境

オンライン授業など教育環境も大きく変わったと思います。それに合わせた環境を作っていくことは大変だと思いますが、学生が心地よく過ごし学べるような環境を提供できると良いと思います。

ITの世界は日進月歩で1年でも大きく変わります。持続的な情報環境の整備とカリキュラムの工夫といったハード面、ソフト面からの改善を図っていることは大変良い方向であると思います。

7 学生の受入れ募集

取り組まれている結果が少しずつ出てきている様子がうかがえます。様々な取組を行って、学生の確保に努めていただいているありがたく思います。在校生が出身校を訪問し、近況報告するような活動も良いと思います。

福祉業界には外国の方も多く就労している現状もあり、これからもっと多くなるとも言われています。人口減少社会の中で外国人の労働者は必要です。留学生として受け入れることで、働き始める時もスムーズに入れるのではないかと思います。

○ 学校関係者評価委員

委員 甘利 俊明 業界関係者（一般社団法人 山梨県介護福祉士会 会長）

委員 栗原 信 業界関係者（社会福祉法人 信和会 理事長）

委員 堀田 潔 業界関係者（社会福祉法人 山梨檜の会 特別養護老人ホーム和楽 施設長）